Care For Us

アミメニシキヘビ (*Python reticulatus*)

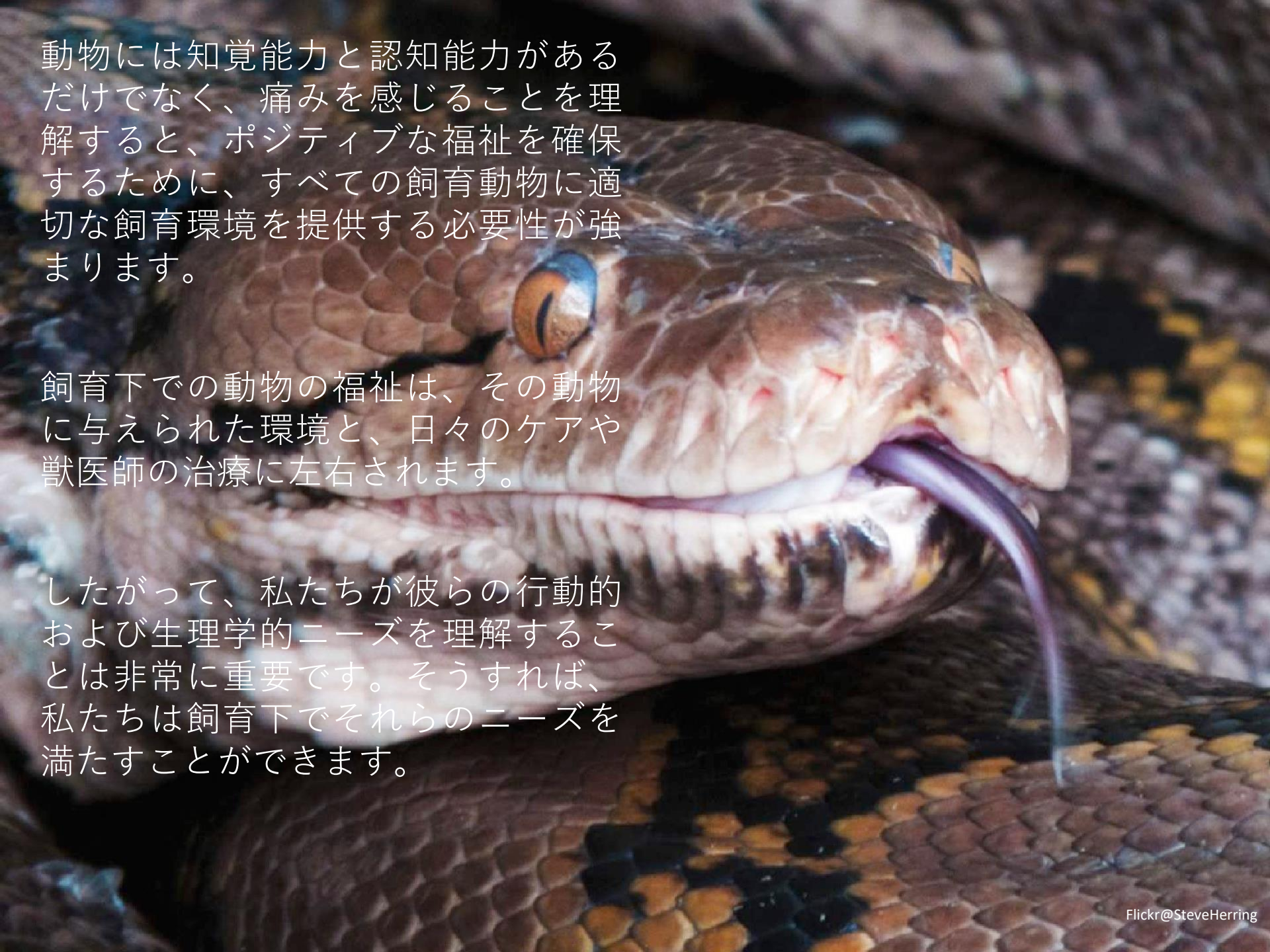
Translated by Fumoto.

動物福祉

動物福祉とは、動物の状態や感情を示します。動物の福祉状態には、ポジティブなもの、ニュートラルなもの、ネガティブなものがあります。

動物の福祉は日々変化する可能性があります。動物のニーズ（栄養面、行動面、健康面、環境面）が満たされていれば、その動物は良い水準の福祉を得ることができます。

飼育下での良い生活とは、動物がその生涯を通じて一貫して良い福祉を経験できることかもしれません。

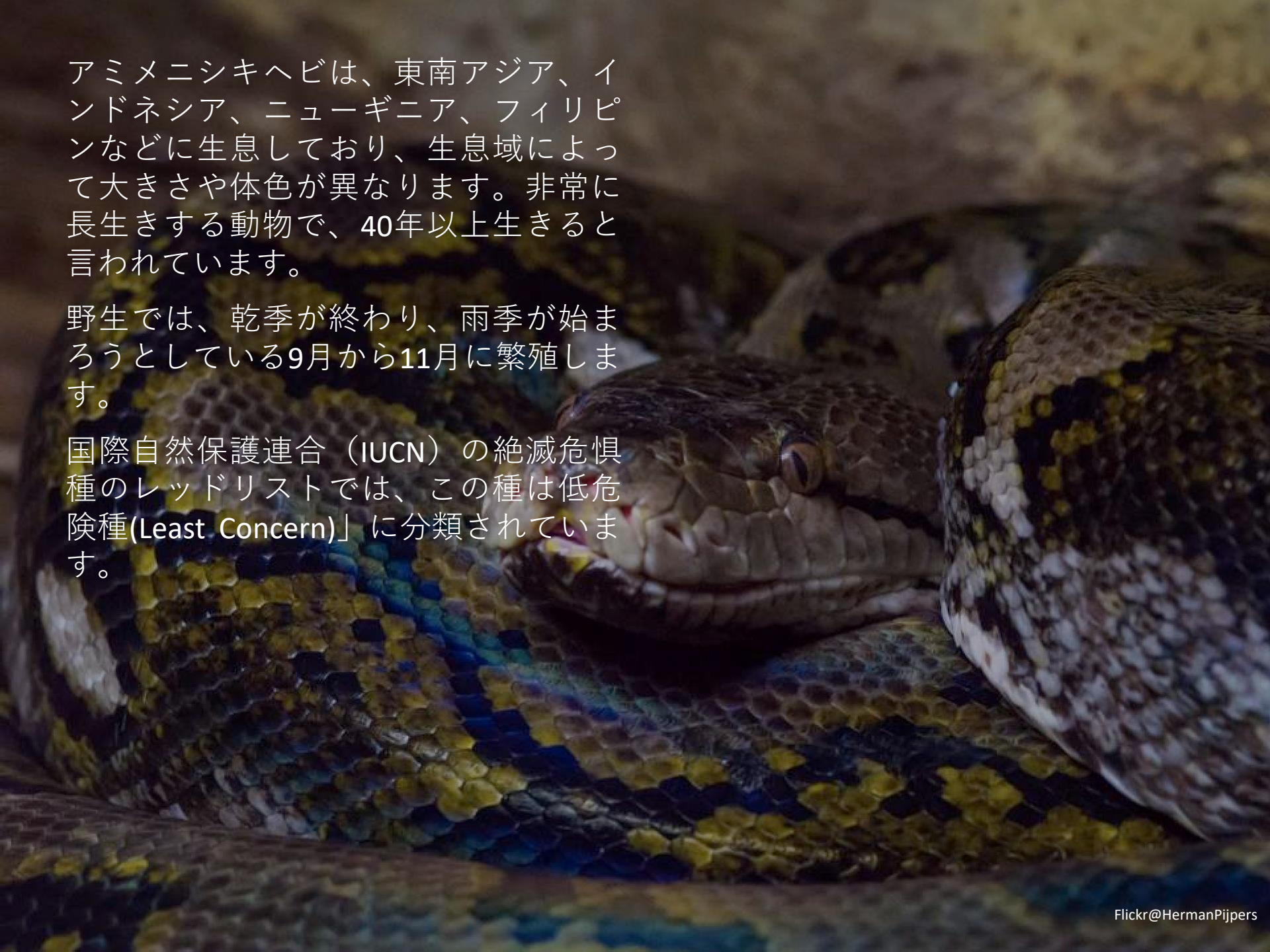


動物には知覚能力と認知能力があるだけでなく、痛みを感じることを理解すると、ポジティブな福祉を確保するために、すべての飼育動物に適切な飼育環境を提供する必要性が強まります。

飼育下での動物の福祉は、その動物に与えられた環境と、日々のケアや獣医師の治療に左右されます。

したがって、私たちが彼らの行動的および生理学的ニーズを理解することは非常に重要です。そうすれば、私たちは飼育下でそれらのニーズを満たすことができます。

Flickr@SteveHerring



アミメニシキヘビは、東南アジア、インドネシア、ニューギニア、フィリピンなどに生息しており、生息域によって大きさや体色が異なります。非常に長生きする動物で、40年以上生きると言われています。

野生では、乾季が終わり、雨季が始まろうとしている9月から11月に繁殖します。

国際自然保護連合（IUCN）の絶滅危惧種のレッドリストでは、この種は低危険種(Least Concern)」に分類されています。

Flickr@HermanPijpers

ニシキヘビは空間が好き

ニシキヘビは、世界で最も長いヘビと考えられており、約5メートル、中には9メートルを記録した個体もいます。成体のメスは、通常、オスよりも大きくて長い。孵化したアミメニシキヘビは体長40〜50cmで、非常に早く成長し、1年で3mに達します。

ニシキヘビは夜になると非常に活動的になり、特にオスのニシキヘビはメスを求めて長距離を移動します。

ポジティブな行動を引き出すために

飼育下では、少なくともヘビ自身の長さと同じ長さの幅と高さをもつスペースがあり、全身を伸ばすことができ、登ったり、水浴びをしたり、狩りをしたりといった通常の行動を行うのに十分な大きさの囲いを用意する必要があります。

Flickr@MichaelGil

ニシキヘビはカモフラージュする

野生のニシキヘビは隠れるのが得意なので、見つけるのは非常に困難です。彼らの名前は、体にある美しい「網目状」の模様に由来します。一見、派手な色に見えますが、このヘビが生息する熱帯ジャングルでは、その色が森の中の木漏れ日に完全に溶け込んでいます。

ポジティブな行動を引き出すために

ヘビが囲いの中に隠れることができるように、興味深くダイナミックな環境を用意します。巣穴や隠れ場所、自然の枝や生い茂った葉などが、面白い環境を作るのに役立ちます。

ニシキヘビは温度調節が必要

熱帯雨林に生息するニシキヘビは、変温動物です。周囲の環境と熱交換することで体温を調節します。哺乳類とは異なり、爬虫類は自分で熱を作り出すことができず、外部から熱を得ることに依存しています。

ポジティブな行動を引き出すために

飼育下では、ヘビのために熱源を用意する必要があります。ヒートランプや床暖房などの熱源が必要ですが、ヘビは熱を得るだけでなく、熱を逃がすことも必要です。そのため、囲いの中に暖かい場所と冷たい場所を設けて、「温度勾配」や「温度モザイク」を作るようにします。

最低温度は22℃以下、最高温度は38℃を超えないようにしましょう。ヘビが、どの温度を浴びたいかを選択できることはとても重要です。

Flickr@tontantravel

ニシキヘビは水に浸かるのが好き

大きくて重い体のヘビなので、ニシキヘビは、長い時間、水に浸かります。水は空気よりも質量があるため、彼らの重い体を支えます。水中にいることは、潜在的な捕食者から大きな体を隠すのにも役立ちます。

ポジティブな行動を引き出すために

飼育されているニシキヘビは、自分の好きな時に水に浸かれるように、十分な大きさの池を用意してください。そのためには、自然の池や大きなボウルを用意して、完全に水に浸かることができるようにします。

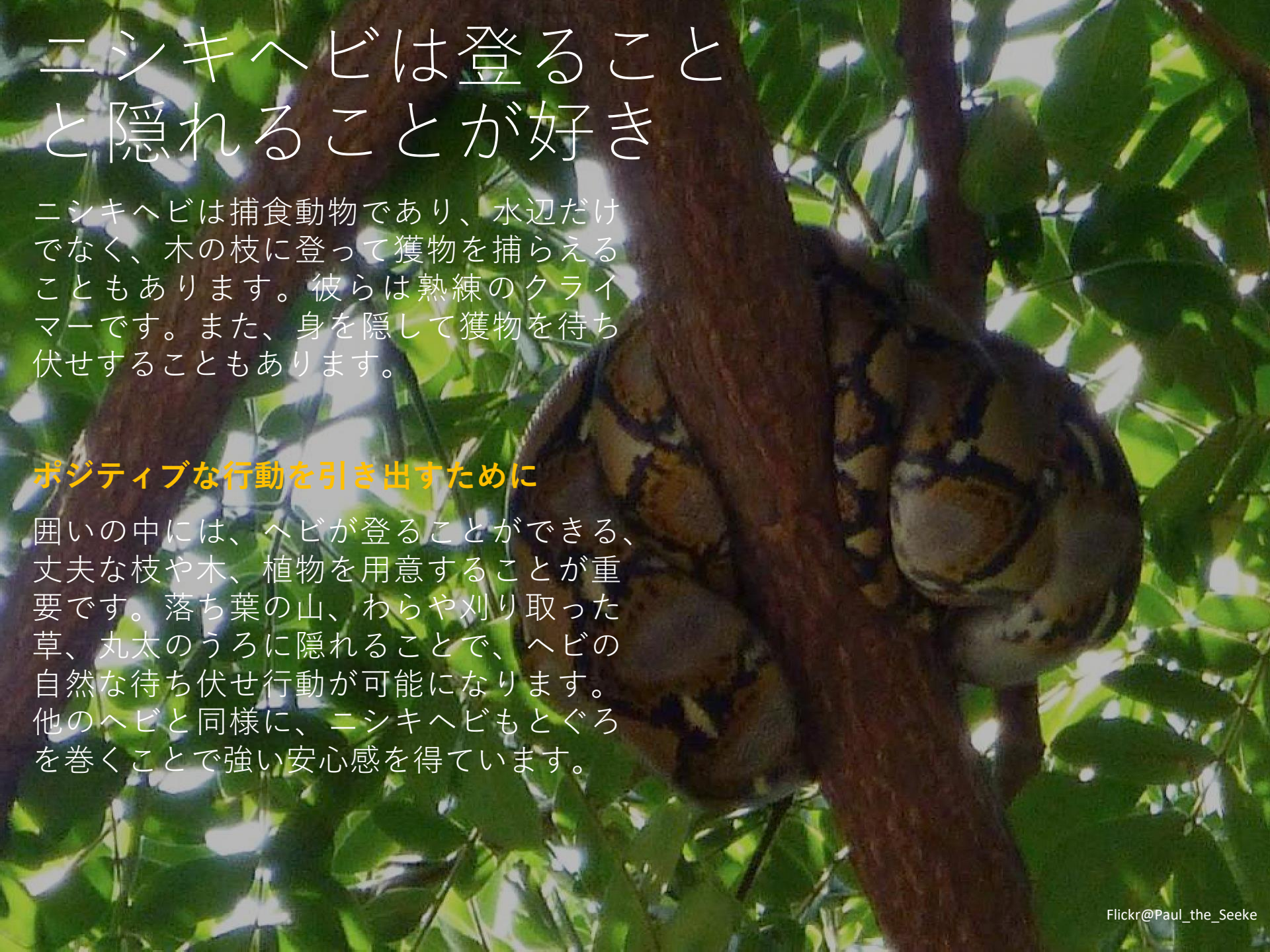
Flickr@tontantravel

ニシキヘビは登ることと隠れることが好き

ニシキヘビは捕食動物であり、水辺だけでなく、木の枝に登って獲物を捕らえることもあります。彼らは熟練のクライマーです。また、身を隠して獲物を待ち伏せすることもあります。

ポジティブな行動を引き出すために

囲いの中には、ヘビが登ることができる、丈夫な枝や木、植物を用意することが重要です。落ち葉の山、わらや刈り取った草、丸太のうろに隠れることで、ヘビの自然な待ち伏せ行動が可能になります。他のヘビと同様に、ニシキヘビもとぐろを巻くことで強い安心感を得ています。



Flickr@Paul_the_Seeke

ニシキヘビは単独性

野生のニシキヘビは、ほとんどが単独で生活していて、繁殖期にのみ集まり、オス同士がレスリングで競い合い、相手のオスを地面に組み伏せて優位性を主張するようです。複数のオスが同じメスに求愛することもあり、その場合は数週間にわたって同じ場所で複数の個体が同居することになります。しかし、これは一般的に短期間であり、交尾後はそれぞれのニシキヘビは分散します。

飼育下では、同じ囲いの中に複数のニシキヘビを入れる傾向があります。これは、この動物にとって通常の、または自然な社会的グループではなく、同じ空間に過密にいると、熱、避難場所、水浴び、食べ物などの環境資源をめぐって個体が競争するため、かなりのストレスになります。繁殖を目的としない限り、ニシキヘビは単独で飼育するのが理想的です。

繁殖すべきか、繁殖せざるべきか？

アミメニシキヘビは卵生（卵を産む）で、メスは卵の周りに巻きついて抱卵します。卵は摂氏30度の環境下で、通常90日ほどで孵化します。オスは約1年半、体長約3メートルで性成熟しますが、メスはそれよりもはるかに長く、3年かかり、体長は4メートル以上になります。成熟したメスが一貫して餌を拒否した場合は、交尾の準備ができていることを示しています。これは、日中の長さが短く、夜間の気温が低いという環境条件の下で起こる可能性があります。

繁殖は慎重に検討してください。アミメニシキヘビの生息域では、かなり一般的な種であると思われるため、この種を繁殖させようという保護活動は行われていません。大きなメスは60個以上の卵を産むので、60匹の若いニシキヘビを適切に世話する必要があります。また、オス同士はかなり激しく争うので、離して飼う必要があります。

Flickr@Rushen

ニシキヘビは食事が好き

ニシキヘビは、上唇の鱗に赤外線の熱を感知する孔があります。これにより、完全な暗闇の中で恒温動物の獲物を追跡し、恒温動物の捕食者を検知することができます。

自然の生息地では、ニシキヘビは主に営巣中の鳥や水鳥、鹿、豚、げっ歯類、その他の哺乳類などの恒温動物の獲物を食べます。また、日和見主義で、死んだばかりの動物を食べることもあります。

ポジティブな行動を引き出すために

適切で興味をそそるような餌を与えます。サイズの異なるさまざまな種類の獲物を与え、さまざまな給餌方法を試してください。生きた獲物の提供はご法度です。通常は殺したばかりの獲物であれば問題ないので、これは不要です。餌はニシキヘビが最も活動的になる夕方や夜に与えるか、囲いの中を薄暗くしておきましょう。

保護されたニシキヘビ

生息国の動物園や保護センターに、しばしば野生から直接やってきたニシキヘビが展示されています。このような野生のニシキヘビは、餌や、落ち着くことを拒否することがよくあります。このようなヘビは、できるだけ早く野生に返すべきです。しかし、動物園がどうしてもニシキヘビを飼わなければならない場合、以下をお勧めします。

- ニシキヘビを展示しないでください。これにより、ニシキヘビがさらにストレスを感じることなく飼育環境に落ち着くことができます。
- 囲いの中には、温度勾配や暖かい場所、涼しい場所でヘビが完全に身を隠せるように、いくつかのオプションがあることを確認してください。
- ヘビを取り扱う時間を制限し、給餌の前後に取り扱わないでください。
- 寄生虫や病気を媒介する可能性があるため、野生で捕獲したニシキヘビを同居させないでください。成熟したオスはお互いに争う可能性もあります。

Flickr@HermanPijpers

ニシキヘビの楽しみ...

休息したり、狩りをしたり、水浴びをしたりするスペースがたくさんあること。

飼育下では、彼らが一生幸せで健康でいられるように、自然で正常な行動を常に再現するようにしなければなりません。

WILD WELFARE